

IPM実践指標(促成きゅうり)

管理項目		管理ポイント	点数	チェック欄		
				昨年の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況
予防	病害虫・雑草の発生しにくい環境の整備	圃場周辺の管理	圃場周辺の雑草を除去し、病害虫雑草の圃場内への侵入を防止する。	1点		
		土づくり	完熟堆肥の施用や、緑肥作物のすき込みによる土づくりを行い、病気に罹りにくい強健な作物栽培に心がける。	1点		
		施肥及び水管理	草勢をよく観察しながら、適正に施肥及び水管理をおこなう。	1点		
		排水対策	排水が悪い圃場は暗渠排水の設置、通路や排水口を整備するなどの改善を行う(排水が悪い場合のみ)。	1点		
		栽植密度	適正な栽植密度とし、風通しをよくする。	1点		
		適正な換気	施設内が多湿になりすぎないように循環扇を利用したり、適正な換気を行う。	1点		
		栽培終了時の管理	施設内を蒸しこむ。生育株は株元で切断、もしくは抜き取り施設内で完全に枯らす。	1点		
判断	防除要否・タイミングの判断	発生予察情報等の活用	発生予察情報等を参考にするなど、病害虫の発生動向を注視し、防除計画を作成する。	1点		
		気象情報の把握	週間天気予報等の気象情報を把握し、防除の要否を判断する。また、適期防除を心がける。	1点		
		トラップの設置	モニタリング用粘着板を設置し、発生状況を調査する。	1点		
		病害虫の観察	近隣の栽培農家などと病害虫の発生状況などを情報交換し、圃場での発生を予測するなどの判断材料とする。	1点		
		病害虫の観察	病害虫の発生状況を観察し、発生初期に薬剤散布を行うなど効果的な防除を行う。また発生が極めて少ない場合は捕殺や抜き取りを行う。特に、ウイルス病に感染した株は早期発見につとめる。	1点		
防除	耕種的防除	土壌消毒	太陽熱消毒・土壌還元消毒などをおこなう。	1点		
		品種の選定	作型に応じた品種選択を行う。抵抗性品種、抵抗性台木を選ぶ。	1点		
		雑草管理	植え付けまでに雑草が発生した場合は、種子の結実前に耕起耕耘を行う。多年生雑草は地下茎まで抜き取り、適切に処分する。	1点		
			マルチをして雑草を抑制する。	1点		
	生物的防除	アザミウマ・コナジラミ類	アザミウマ類、コナジラミ類に対してスワルスキーカブリダニを放飼する。	1点		
		アブラムシ類	アブラムシ類に対してコレマンアブラバチを放飼する。なお、この場合あらかじめバンカープラント(麦とムギクビレアブラムシ)を設置する。	1点		
		ハダニ類	ハダニ類に対してミヤコカブリダニ、チリカブリダニを放飼する。	1点		
		チョウ目害虫	ハスモンヨトウ、オオタバコガに対して生物農薬(BT剤等)を利用する。	1点		
		うどんこ病、灰色かび病	灰色かび病の予防にパチルス・ズブチリス剤を定期的に散布する。	1点		
	物理的防除	防虫ネットの設置	外部からの虫の侵入を防ぐため、ハウスのサイドや谷間に、0.6mm以下の目合の防虫ネットを設置する。	1点		
紫外線除去フィルムの展張		外部からの侵入を阻害するため、紫外線除去フィルムを展張する。	1点			
粘着資材の設置		粘着テープを設置する。	1点			
化学的防除	農薬の使用全般	十分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。	1点			
		薬剤感受性の低下を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。	1点			
		天敵に影響の少ない薬剤を選択する。	1点			
		化学農薬に対する感受性の低下を抑制するため、気門封鎖剤等の物理的防除効果のある剤を組み入れる。	1点			

IPM実践指標(促成きゅうり)

管理項目	管理ポイント	点数	チェック欄		
			昨年の 実施状況	今年度の 実施目標	今年度の 実施状況
散布後の処理	散布器具, タンク等の洗浄を十分行い, 残液やタンクの洗浄水は適切に処理し, 河川等に流入しないようにする。	1点			
作業日誌	各農作業の実施日, 病害虫・雑草の発生状況, 農薬を使用した場合の名称, 使用時期, 使用量, 散布方法等栽培管理状況を記録する。	1点			
研修会等への参加	県や農業協同組合が開催するIPM研修会等に参加し, 情報収集に努める。	1点			
		合計 点数			
		対象 IPM計			
		評価結果			